

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の検討状況について（案）

※これまでの主な検討状況

- 「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）（以下「新テスト」という。）」検討・準備グループにおいて、平成29年度初頭の実施方針の策定・公表に向け、以下のとおり、記述式や英語の制度設計をはじめとする各論点について検討・整理。
- 特に、記述式については、教科専門家やテスト理論家等の協力を得て、作問方法と採点方法に関する各検討チームを設け、作問の構造化や採点方法の在り方等について具体化を進めている。【別紙1】

【参考】開催状況について（平成28年度）

- ・ 検討・準備グループ：5月以降、これまでに3回開催
- ・ 作問方法検討チーム：6月以降、これまでに2回開催
- ・ 採点方法検討チーム：5月以降、これまでに3回開催
- ・ 他に、作問方法と採点方法の検討チームの合同会議を1回開催

※ 具体化の検討に当たっては、今後も、大学・高等学校等の関係団体等の意見を十分に聞き、現場の状況を踏まえて進めていく。

1. 記述式問題の導入

（1）記述式の導入意義

- 記述式では、テキストの内容（筆者の考えなど）を説明する「文章の解釈」だけでなく、テキストの内容を基に考えを文章化する「文章による表現」のプロセスを評価できる。
- 国立大学の二次試験においても、国語、小論文、総合問題のいずれも課さない募集人員は、全体の約6割にのぼる。【別紙2】
共通テストに記述式問題を導入し、より多くの受験者に課すことにより、入学者選抜において、考えを形成し表現する能力などをよりの確に評価することができる。このことで、高等学校における能動的な学習を促進する。
- 共通テストの中で記述式問題を実施することで、記述式試験で評価すべき能力に関する高校・大学間での共通理解を深めることができるとともに、個別大学の問題作成や採点の負担を軽減。

(2) 評価すべき能力や作問の構造

中央教育審議会における次期学習指導要領の議論も踏まえ、国語と数学について、選択式・記述式と「思考のプロセス」の関係、共通テストと個別選抜の二次試験においてそれぞれ評価すべき能力や作問の考え方を明確化。【別紙3】

あわせて、大学入試センターに作問体制を整備。

※ 大学入試センターが今年度実施する「フィージビリティ検証事業」において、モデル問題を作成予定。

(3) 採点の方法・体制

限られた時間や採点者の体制の中で効率的に採点を行うため、現在の技術水準で実現可能な方法により、答案の読み取り、文字認識によるデータ化、キーワードや文章構造による分類（クラスタリング）を行うことについて、民間事業者の知見も踏まえながら検討。【別紙4】

(4) 実施時期を含む全体の制度設計

○ 実施時期を含む全体の制度設計は、上記の（1）導入意義、（2）評価すべき能力や作問の構造、（3）採点の方法・体制と相互に密接に関連。

○ これらを全体として考慮した上で、現在、次の三つの案を検討。【別紙5】

【案1】 1月に実施し、センターが採点する案

【案2】 12月に実施し、センターが採点する案

① 記述式とマーク式を同一日程で実施する案

② マーク式は従来通り1月に実施し、記述式を別日程で実施する案

【案3】 1月に実施し、センターがデータを処理し、それを踏まえて各大学が採点する案

※ 【案1】については、採点期間が短期間となるため、精緻な採点が可能かという課題が生じるとともに、出題できる記述式問題の量・質が極めて限定的なものとなる。

※ 【案2の①】に対しては、高等学校教育の影響、運動部活動への影響の観点から、また、【案2の②】については、受験者の負担、実施体制の確保の観点から、関係者から懸念が示されており、十分な検討が必要。

※ 【案3】は【案1】から派生したものであるが、この案には、出題や採点の幅が広がるメリットがある一方、多くの検討すべき論点・課題もあることから、今後、それらについて十分な検討が必要。

○ これら3案を基に、今後、大学・高等学校等の関係団体等の意見を踏まえ検討。

2. 英語の多技能を評価する問題

- グローバル化が急速に進展する中、外国語によるコミュニケーション能力（特にスピーキングとライティングの能力）の向上が課題。
- スピーキングとライティングを含む4技能評価の実現のためには、日程や体制等の観点から、民間の資格・検定試験を積極的に活用する必要。
 - ※ 現状では、資格・検定試験の活用は一般入試で少ない状況。【別紙6】4技能評価の実現により、高等学校における授業改善を促進。
- これらを踏まえながら、英語の4技能評価を着実に推進するため、
 - ・ 将来的には、受検料負担に配慮しつつ、関係者の意見を踏まえながら、資格・検定試験の活用のみにより英語4技能を評価することを目指すこと。
 - なお、資格・検定試験は、高等学校学習指導要領との整合性や大学入学者選抜試験としての妥当性、受検料負担の抑制などで一定の基準を満たすものとして、国（センター）が認定したものとすること。
 - ・ 当面は、資格・検定試験の状況を見定めつつ、新テストにおいて従来通り英語の試験（リーディング、リスニング）を実施し、認定した資格・検定試験の2技能（ライティング、スピーキング）の結果と共通テストの結果を組合せ、評価することも併せて実施すること。
 - などを検討している。【別紙7】

3. マークシート式問題の改善

- 思考力・判断力を一層重視した作問への改善の具体的な在り方
 - 中央教育審議会教育課程企画特別部会の議論も踏まえ、各教科・科目の特性を踏まえつつ、思考力・判断力を一層重視した作問への改善を図るため、大学入試センターに作問体制を整備。
 - ※ 「フィージビリティ検証事業」を通じて、モデル問題（国語、数学、物理、世界史）を作成予定。
 - ※ センターにおいては、新テストの記述式問題導入・マークシート式問題改善について、学習指導要領の趣旨・内容との連携をよりの確に確保するとともに、評価すべき能力や作問の構造を実際の作題に確実に反映するため、作題委員構成の見直し、作題委員の人材確保を含めた作題方針・体制の抜本的な見直しが必要。

○ 出題科目数の簡素化【別紙8】

受験者数・成績提供者数の動向や各大学の試験科目の位置づけの状況を把握するとともに、学習指導要領の内容等も勘案しつつ、高校生の科目選択の幅に配慮して、例えば、次のような出題科目の取扱いについて、今後、関係方面と調整。

- ・「数学Ⅰ」と「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ」と「数学Ⅱ・数学B」の取扱い
- ・「簿記・会計」、「情報関係基礎」の取扱い
- ・「世界史A」と「世界史B」、「日本史A」と「日本史B」、「地理A」と「地理B」、「倫理」「政治・経済」と「倫理及び政治・経済」の取扱い

※ その他、英語以外の外国語の取扱いについて、英語の検討状況も踏まえ検討。

4. 結果の表示

○ マークシート式問題：よりきめ細かい評価情報の提供

各大学に提供する多様な情報（各科目の領域ごと、問ごとの解答状況など）に関する具体的内容、項目、表示方法等の在り方を検討中。

○ 記述式問題：その特性を踏まえた段階別表示の考え方

国語・数学の記述式問題の結果について、記述式問題の持つ特性を踏まえ、それぞれ、段階別表示の具体的内容、項目、表示方法等の在り方を検討中。

5. 複数回実施・CBTの導入

○ 複数回実施の実現可能性の検討

高大接続システム改革会議「最終報告」では、「日程上の問題や、CBTの導入や等化等による資格試験的な取扱いの可能性などを中心に、その実現に向けて引き続き検討することが適当」とされており、これまでの成果を踏まえつつ、引き続き検討。

○ CBTについては、「フィージビリティ検証事業」において、導入に向けた検証を実施。

この成果も踏まえつつ、平成36年度以降の複数回実施の実現可能性を検討。

6. プレテスト

○ 平成29年度概算要求の内容・スケジュール【別紙9】

新テストを円滑に導入・実施するため、記述式の作問・採点を含むテストの信頼性・妥当性、試験問題の難易度や試験運営上の課題、不測の事態発生時の対応、民間の活用の検証等を行うための試行テスト（プレテスト）の実施に向けた必要経費を要求。

大学入学希望者学力評価テスト（仮称）

○新テストの実施方針

- ・対象教科・科目の出題内容と範囲
- ・記述式・英語の実施方法と実施時期、成績表示
- ・プレテストの実施内容
- ・正式実施までのスケジュール
- ・名称 等

○モデル問題

など

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」検討・準備グループ

※5月～→29年度初頭の実施方針等に反映

記述式

①作問方法検討チーム※6月～

- 国語と数学について、選択式・記述式と「思考のプロセス」の関係、共通テストと個別選抜の二次試験においてそれぞれ評価すべき能力や作問の考え方を明確化。

②採点方法検討チーム※5月～

- 効率的に採点を行うため、現在の技術水準により、答案の読み取り、テキスト化、キーワードや文章構造による分類（クラスタリング）を行うことについて、民間事業者の知見も踏まえながら検討。

大学入試センター

新テスト実施企画委員会

①問題調査研究部会

国語WG

数学WG

〔今後随時、科目別WGを設置〕

②記述式実施企画部会

フィージビリティ検証事業

連携協力

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」検討・準備グループ委員

	荒瀬 克己	大谷大学文学部教授
○	岡本 和夫	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事
	沖 清豪	早稲田大学入試開発オフィス長
	川上 浩良	首都大学東京入試改革担当学長補佐
	関根 郁夫	埼玉県教育委員会教育長
	東島 清	京都大学監事、大阪大学名誉教授
	平方 邦行	工学院大学附属中学校・高等学校長
	宮本 久也	東京都立西高等学校長
	安井 利一	明海大学長

計 9 名

※ 5 0 音順・敬称略

○：主査

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」記述式の作問方法検討チーム委員

宇佐美 慧	筑波大学人間系准教授
柴山 直	東北大学大学院教育学研究科教授
島田 康行	筑波大学教授・アドミッションセンター長
清水 美憲	筑波大学人間系教授
高木まさき	横浜国立大学教育人間科学部教授
坪井 俊	東京大学大学院数理科学研究科教授
藤森 裕治	信州大学教育学部教授

計 7 名

※ 5 0 音順・敬称略

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」記述式の採点方法検討チーム委員

乾 健太郎	東北大学大学院教授
宇佐美 慧	筑波大学人間系准教授
黒橋 禎夫	京都大学大学院教授
柴山 直	東北大学大学院教授
中川 正樹	東京農工大学大学院教授
松尾 豊	東京大学大学院特任准教授

計 6 名

※ 5 0 音順・敬称略

国立大学の二次試験において、国語、小論文、総合問題のいずれも課さない学部の募集人員は、**全体の61.6% (49,487人/80,336人)**

(学部単位の募集人員数の合計)

	募集人員	国語			小論文		総合問題		国語、小論文、 総合問題の いずれも 課さない
		必須	選択	課さない	課す	課さない	課す	課さない	
前期	64,787	15,803	4,757	44,227	3,949	60,838	1,149	63,638	39,470
		24.4%	7.3%	68.3%	6.1%	93.9%	1.8%	98.2%	60.9%
後期	15,549	50	258	15,241	4,203	11,346	1,041	14,508	10,017
		0.3%	1.7%	98.0%	27.0%	73.0%	6.7%	93.3%	64.4%
全体	80,336	15,853	5,015	59,468	8,152	72,184	2,190	78,146	49,487
		19.7%	6.2%	74.0%	10.1%	89.9%	2.7%	97.3%	61.6%

※下段は割合

注1)「小論文」と「総合問題」について、選択科目となっている場合は、「小論文を課す」「総合問題を課す」として計上している。

注2)総合問題とは、複数教科を総合して学力を判断する総合的な問題を指す。

※各大学の発行する「入学者選抜要項」を基に作成

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の国語・数学の記述式問題で 評価すべき能力や作問の構造について（素案）

I. 国語

1. 選択式・記述式と「思考のプロセス」の関係

（1）中央教育審議会における資質・能力の整理

教育課程企画特別部会では、国語科の基盤となる、言語能力を構成する資質・能力が働く過程として、「テキスト（情報）の理解」と「文章や発話による表現」を柱に整理している。

「テキスト（情報）の理解」については、テキスト（情報）の構造と内容を把握し、精査・解釈し、考えを形成する「認識から思考へ」という過程をたどると整理している。

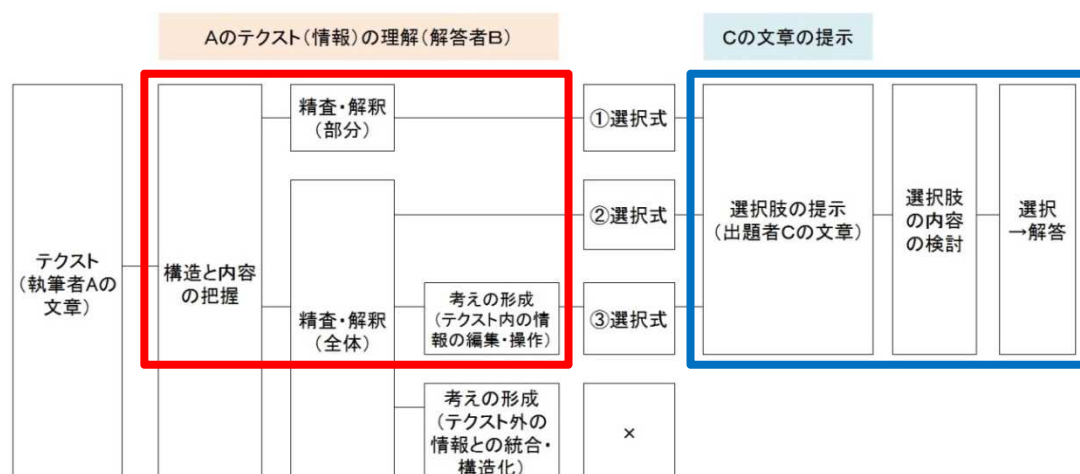
「文章や発話による表現」については、表現するテーマ・内容、構成・表現形式を検討しながら、考えを形成・深化させ、表現するという、「思考から表現へ」という過程をたどると整理している。

（2）選択式問題と「思考のプロセス」

選択式の問題では、まず、上記（1）のうち「テキスト（情報）の理解」（構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成の一部）を経た後、出題者が提示した選択肢の中から、思考の結果と適合するものを選択し、解答する。

なお、現行の大学入試センター試験については、高大接続システム改革会議の「最終報告」（平成28年3月）で、「知識の習得状況の評価に優れていることに加えて、マークシート式でありながらも、与えられた問題を分析的に思考・判断する能力の評価に優れている」としつつも、「多肢選択式中心のため、文章を書くこと、図を描くことなどを解答に含む問題は出題しにくく、また、選択肢の内容を参考として解答するなどのケースもある」といった指摘があるとしている。

（参考）選択式の思考プロセスのイメージ



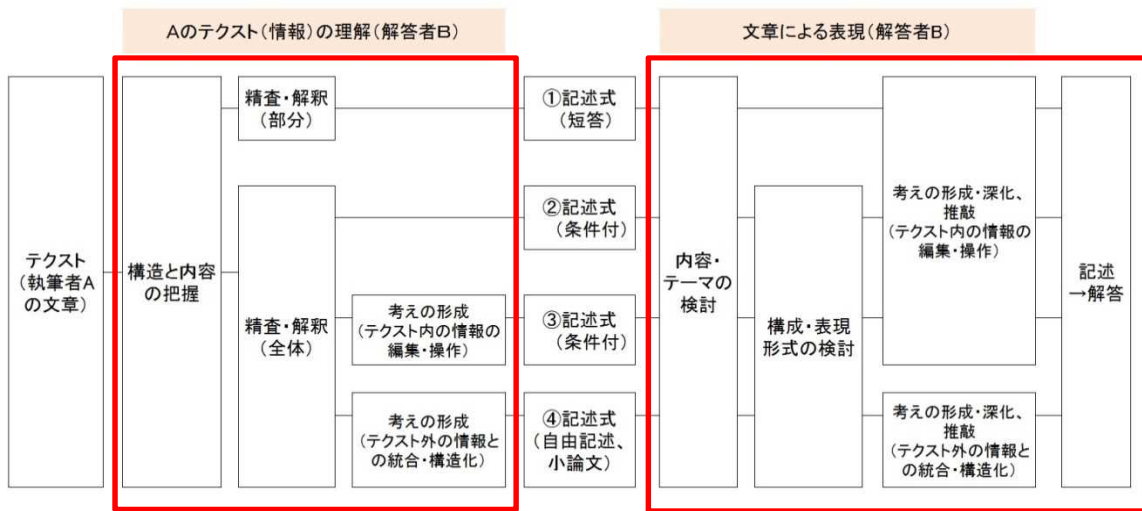
(3) 記述式問題と「思考のプロセス」

これに対して、記述式の問題では、上記(2)の「テキスト(情報)の理解」に加えて、考えたことを文章化する「文章による表現」(内容・テーマの検討、構成・表現形式の検討、考えの形成・深化、推敲、表現)を経ることが特徴である。

この記述式については、選択式と比べて、以下の利点が挙げられる。

- α. 思考に当たっての主体性が発揮される
- β. 結論に至る思考のプロセスの自覚が促される
- γ. 表現力の発揮が図られる

(参考) 記述式の思考プロセスのイメージ



2. 共通テストと個別選抜の二次試験とでそれぞれ評価すべき能力や作問の考え方

○ 上記の選択式・記述式と「思考のプロセス」の整理を踏まえつつ、国語の問題として解答させる内容としては、以下の4種類に大別できる。

- ①テキストの部分的な内容を把握・理解して解答する問題
- ②テキストの全体的な精査・解釈によって解答する問題
- ③テキストの全体的な精査・解釈によって得られた情報を編集・操作して解答する問題
- ④テキストの全体的な精査・解釈を踏まえ、自分の考えと統合・構造化して解答する問題

○ さらに、これら①～④の解答させる内容、問題の例と資質・能力、出題形式との関係については、別紙3①のとおり。

○ 大学入学者選抜においては、これまでは、「テキストの内容(筆者の考えなど)を説明する問題」が中心であったが、今後は、「テキストの内容を基に考えを文章化する問題」を導入することが重要である。

- これまでの大学入学者選抜等における国語の記述式問題を分析すると、「①テキストの部分的な内容を把握・理解して解答する問題」や、テキストを要約したり、共通点・相違点をまとめたりするなどの「②テキストの全体的な精査・解釈によって解答する問題」が中心となっている。

これに対し、考えたことを文章により表現する「③テキストの全体的な精査・解釈によって得られた情報を編集・操作して解答する問題」は、散見される程度となっている。

他方、「④テキストの全体的な精査・解釈を踏まえ、自分の考えと統合・構造化して解答する問題」は、テキストから得た情報を既存の知識・経験等に統合することなどにより、自分の考えを論じるものであることから、小論文などの解答の自由度の高い記述式として出題されている。(解答の自由度の高さから、個別選抜に馴染みやすい)

- これらを踏まえ、共通テストの国語の記述式においては、「②テキストの全体的な精査・解釈によって解答する問題」だけでなく、「③テキストの全体的な精査・解釈によって得られた情報を編集・操作して解答する問題」を条件付記述式として出題することを想定している。

このことにより、「精査・解釈」に関わる資質・能力（例えば、論理（情報と情報の関係性）の吟味など）だけでなく、「考えの形成・深化」に関わる「情報を編集・操作する力」をよりよく評価する作問に取り組むこととする。

(参照) 高大接続システム改革会議の「最終報告」(平成28年3月)

3. 大学入学者選抜改革

(1) 大学入学者選抜改革の基本的な考え方

イ 「AO入試」「推薦入試」「一般入試」の在り方の見直しなどを通じた新たなルールづくり
(特に現行の「一般入試」について指摘されている課題の改善)

- また、現状において、大学によっては、
- ・ 一般入試の試験科目が1～2科目のみとなっている場合もあること
 - ・ 知識に偏重した選択式問題が中心で記述式問題を実施していない場合もあること
 - ・ 記述式を実施している場合であっても、複数の情報を統合し構造化して新しい考えをまとめる能力やその過程や結果を表現する能力などについては、必ずしも十分に評価されていないことが多いこと

などを踏まえ、各大学において、「知識・技能」はもとより「思考力・判断力・表現力」を適切に評価するため「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の積極的な活用を図るとともに、各大学の個別選抜の出題の実態に関するより詳細な課題の分析を行いつつ、改善を図る必要がある。特に、出題科目についてその数も含めた見直しに取り組むことや、今後、社会のどのような分野においても主体性を持って活動するために重要な複数の情報を統合し構造化して新しい考えをまとめる能力やその過程や結果を表現する能力をよりよく評価するため、解答の自由度の高い記述式問題なども含めた作問の改善、小論文等の導入などに取り組むことが重要である。

(3)「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の導入

イ 基本的事項

③今後の社会で特に重要となる能力の育成・評価

- 現行の大学入試センター試験については、例えば以下のようなことが指摘されている。
 - ・ 知識の習得状況の評価に優れていることに加えて、マークシート式でありながらも、与えられた問題を分析的に思考・判断する能力の評価に優れている。
 - ・ 複数の情報を統合し構造化して新しい考えをまとめる思考・判断の能力や、その過程や結果を表現する能力の評価については更なる改革が求められる。
 - ・ なお、多肢選択式中心のため、文章を書くこと、図を描くことなどを解答に含む問題は出題しにくく、また、選択肢の内容を参考として解答するなどのケースもある。
- このうち、複数の情報を統合し構造化して新しい考えをまとめる思考・判断の能力や、その過程や結果を表現する能力は、今後、社会のどのような分野においても主体性を持って活動し、活躍するために特に重要となるものであり、こうした能力を高等学校教育や大学教育でよりよく育成していくことが重大な課題である。

そのためには、共通テストとして多くの大学入学希望者の学習に大きな影響を与えることとなる「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」において、複数の情報を統合し構造化して新しい考えをまとめるための思考力・判断力やその過程や結果を表現する力などを評価することができるよう、マークシート式問題の一層の改善を図るとともに、自ら文章を書いたり図やグラフ等を描いたり式を立てたりすることを求める記述式問題を導入するための具体的な方策等について今後更に検討する。

ウ 具体的な仕組み

③記述式問題の導入

- III 3. (3) イ③で述べたように、特に今後重要となる複数の情報を統合し構造化して新しい考えをまとめる思考・判断の能力や、その過程を表現する能力をよりよく評価するために、記述式問題を導入することが有効である。
- 「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」に記述式を導入することにより、高等学校教育においても、習得・活用・探究の学習過程における言語活動等の充実が促され、生徒の能動的な学習をより重視した授業への改善が進むことが期待できる。
なお、諸外国の大学入学資格試験においても記述式の採用例は多い。

Ⅱ. 数学

1. 選択式・記述式と「思考のプロセス」の関係

(1) 中央教育審議会における「思考のプロセス」の整理

教育課程企画特別部会では、数学科における資質・能力を育成する学習過程として、事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決することなどを柱とする「思考のプロセス」に着目して整理している。

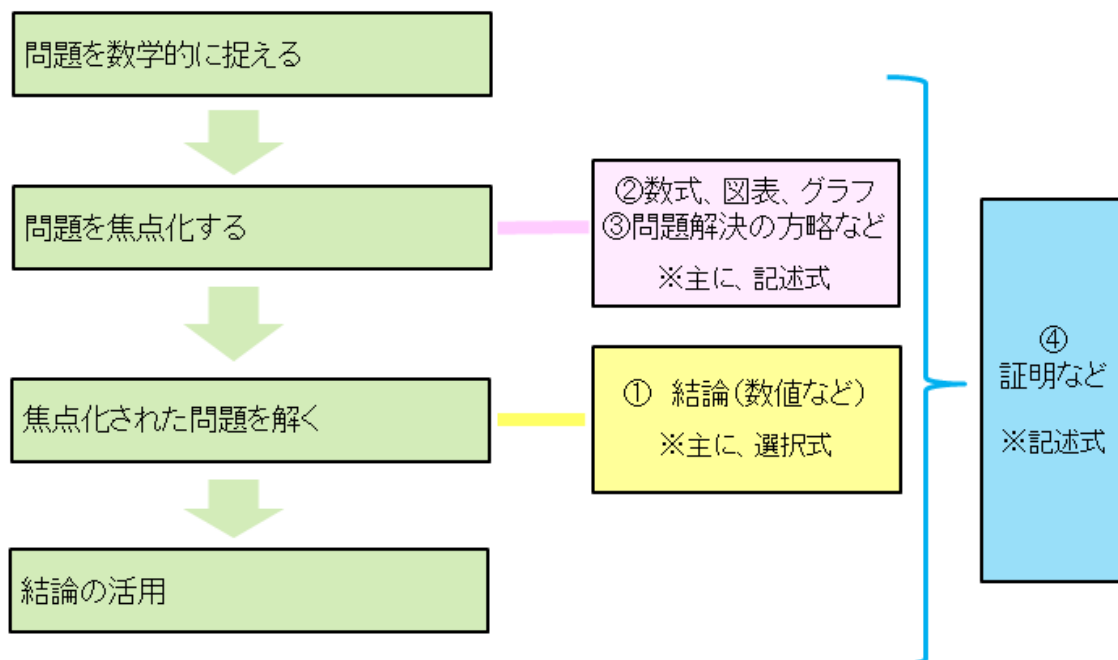
具体的には、

- ・日常生活や社会の事象、数学の事象について数学的に捉えること（問題を数学的に捉える）
- ・数学を活用した問題解決に向けて構想・見通しを立てること（問題を焦点化する）
- ・焦点化した問題を解決すること（焦点化された問題を解く）
- ・解決した結果について、解決過程を振り返り、得られた結果を意味づけたり、活用したりすることや、概念を形成したり、体系化したりすること（結論の活用）と整理している。

(2) 選択式問題と「思考のプロセス」

選択式の問題では、上記（1）のうち、焦点化された問題について、目的に応じて数式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順にしたがって数学的に処理すること等①によって、数値等の解答を得る。その後、出題者が提示した選択肢の中から、①の結果と適合するものを選択し、解答する。

(参考) 数学における思考プロセスと解答形式の関係のイメージ



(3) 記述式問題と「思考のプロセス」

これに対して、記述式の問題では、上記(1)のうち、数学的な処理を行って解決して結果を得るために問題を焦点化して数式、図表、グラフなどで表現すること(2)や、問題場面で成り立つことが予測される数学的な事柄・事実や、問題解決に向けた構想を立てることなど問題解決の方略を表現すること(3)、さらには、いわゆる証明問題などの、数学における問題解決のプロセス全体の表現(4)を行う。

記述式には、選択式と比べて、問題の焦点化やプロセス全体をかき表すことで、以下の利点が挙げられる。

- α. 思考に当たっての主体性が発揮される
- β. 結論に至る思考のプロセスの自覚が促される
- γ. 表現力の発揮が図られる

2. 共通テストと個別選抜の二次試験とでそれぞれ評価すべき能力や作問の考え方

○ 上記の選択式・記述式と「思考のプロセス」の整理を踏まえつつ、数学の問題として解答させる内容(問題の例)と資質・能力、出題形式との関係については別紙のとおり。別紙3②

○ これまでのセンター試験では、焦点化された問題を解くもの(1)が多かった。また、各大学の個別入試の問題では、いわゆる証明問題を含む問題解決のプロセス全体を表現する問題(4)まで問うものが多いが、個別入試で数学が課されない入学希望者に対しては、能力の評価が1のものにとどまる場合が多い。

新たな記述式問題では、問題を焦点化し、数式、図表、グラフなどで表すもの(2)やその問題解決の方略(3)も問える問題を出題し、より深い能力の評価を可能にする。

○ これらを踏まえ、共通テストの数学の記述式においては、「②問題を焦点化する(数式、図表、グラフ)」に加えて、「③問題を焦点化する(問題解決の方略など)」について条件付記述式として出題することを想定している。

このことにより、「焦点化した問題を解決すること」に関わる資質・能力に加えて、「数学を活用した問題解決に向けて、構想・見通しを立てること」に関わる資質・能力をよりよく評価する作問に取り組むこととする。

【国語】解答させる内容（問題の例）と資質・能力、出題形式との関係について（たたき台）

別紙3①

	構造と内容の把握	精査・解釈	考えの形成・深化	
	知識・技能 (略)	<p>【創造的・論理的思考の側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報をも角的・多面的に精査し構造化する力 推論及び既有知識による内容の補足、精緻化 論理(情報と情報の関係性:共通-相違、原因-結果、具体-抽象等)の吟味・構築 妥当性、信頼性等の吟味 構成・表現形式を評価する力 <p>【感性・情緒の側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力 構成・表現形式を評価する力 <p>【他者とのコミュニケーションの側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉を通じて伝え合う力 相手との関係や目的、場面、文脈、状況等の理解 自分の意思や主張の伝達 相手の心の想像、意図や感情の読み取り 構成・表現形式を評価する力 	<p>考えの形成・深化(情報の編集・操作)</p> <ul style="list-style-type: none"> 考えを形成し深める力 情報を編集・操作する力 	<p>考えの形成・深化(知識・経験との統合)</p> <ul style="list-style-type: none"> 考えを形成し深める力 新しい情報を、既に持っている知識や経験、感情に統合し構造化する力 新しい問いや仮説を立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力
(記述式の場合) テキストの内容を説明する問題(筆者の考えなど)	①テキストの部分的把握・理解 ※テキストの部分的な内容を把握・理解して解答する問題 ①選択式・短答式	構造や内容の把握して、テキストに挿入すべき語句を答える 構造や内容の把握して、テキストの内容を答える テキストの中における、比喩表現の示す内容を答える テキストの中における、抽象的表現や難しい表現の意味内容を答える	構造や内容の把握して、テキストに挿入すべき語句を答える 構造や内容の把握して、テキストの内容を答える テキストの中における、比喩表現の示す内容を答える テキストの中における、抽象的表現や難しい表現の意味内容を答える テキストの特定の場面における登場人物の心情、ある心情に基づく言動を答える	○テキストに書かれていること(構造や内容)を把握・理解する ○テキストの情報について答える
	②テキストの全体の把握・理解 ※テキストの全体的な精査・解釈によって解答する問題 ②選択式・条件付記述式	テキストにおける筆者の主張とその主張の理由・根拠を説明する テキストに表現された事物について、目的・場面・文脈・状況等を説明する テキストの会話や表現等に着目して、登場人物の心情の変化等を説明する テキストを通じて対比されている事項について考察し、共通点や相違点について説明する 目的に応じてテキスト全体を要約し、論旨に沿って説明する	テキストにおける筆者の主張とその主張の理由・根拠を説明する テキストに表現された事物について、目的・場面・文脈・状況等を説明する テキストの会話や表現等に着目して、登場人物の心情の変化等を説明する テキストを通じて対比されている事項について考察し、共通点や相違点について説明する 目的に応じてテキスト全体を要約し、論旨に沿って説明する	○テキストを全体的に把握・理解して、精査・解釈を行う ○テキストに示された情報と情報の関係性を吟味する等、精査・解釈して答える ○テキストの全体的に把握・理解し、精査・解釈を踏まえて、情報を編集・操作して、考えを形成し深める ○テキストの情報を多角的・多面的に精査し構造化したり、構成・表現形式を評価したりする等の精査・解釈によって得られた情報を操作・編集し、テキストの内容を説明する
	③情報の編集・操作 ※テキストの全体的な精査・解釈によって得られた情報を編集・操作して解答する問題(テキストの内容を基に考えを文章化する問題) ③選択式・条件付記述式	テキスト全体の論旨を把握し、推論による内容の補足をして、筆者の主張について論じる テキスト全体の論旨を把握し、既有知識や経験による内容の精緻化を行って論じる テキスト全体の論旨を把握し、目的に応じて必要な情報を付加、統合して比較したり、関連づけたりして論じる 複数のテキストの妥当性を吟味し、情報を統合・構造化して論じる	テキスト全体の論旨を把握し、推論による内容の補足をして、筆者の主張について論じる テキスト全体の論旨を把握し、既有知識や経験による内容の精緻化を行って論じる テキスト全体の論旨を把握し、目的に応じて必要な情報を付加、統合して比較したり、関連づけたりして論じる 複数のテキストの妥当性を吟味し、情報を統合・構造化して論じる	○テキストの全体的な精査・解釈を踏まえ、自分の考えと統合・構造化して、考えを形成し深める ○(テキストの情報を用いつつ、)自分の考えを論じる
	④自分の考えとの統合 ※テキストの全体的な精査・解釈を踏まえ、自分の考えと統合・構造化して解答する問題 ④自由記述式・小論文	テキストにおける筆者の主張を踏まえつつ、自分の考えを形成して論じる テキストに示された図表等の情報を分析した上で、仮説を立てて、自分の考えを論じる テキストの論旨を踏まえて、既有知識・経験を具体的に挙げながら、自分の考えを論じる テキストを踏まえて、テキストと自分自身との関わりについて考えたり、想像したりして、自分の考えを形成して論じる	テキストにおける筆者の主張を踏まえつつ、自分の考えを形成して論じる テキストに示された図表等の情報を分析した上で、仮説を立てて、自分の考えを論じる テキストの論旨を踏まえて、既有知識・経験を具体的に挙げながら、自分の考えを論じる テキストを踏まえて、テキストと自分自身との関わりについて考えたり、想像したりして、自分の考えを形成して論じる	テキストにおける筆者の主張を踏まえつつ、自分の考えを形成して論じる テキストに示された図表等の情報を分析した上で、仮説を立てて、自分の考えを論じる テキストの論旨を踏まえて、既有知識・経験を具体的に挙げながら、自分の考えを論じる テキストを踏まえて、テキストと自分自身との関わりについて考えたり、想像したりして、自分の考えを形成して論じる

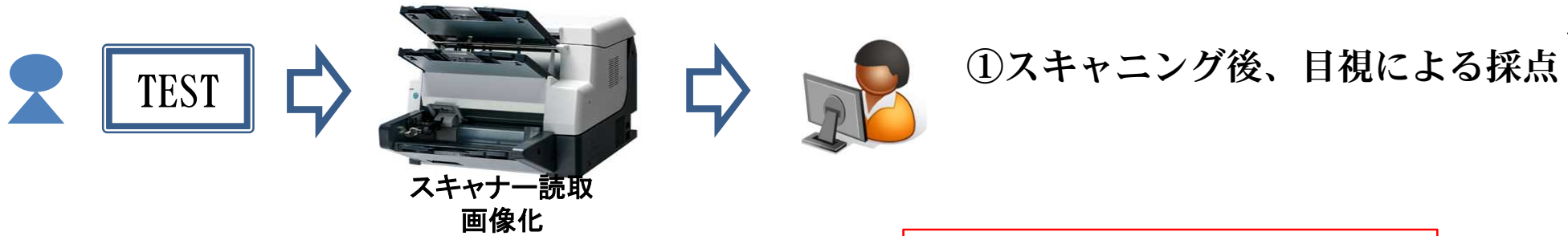
※解答させる内容と資質・能力、出題形式との関係は、代表的な例を挙げているものであり、問い方や場面等によっては別の出題形式等で問う可能性もあり得る。

【数学】解答させる内容（問題の例）と資質・能力、出題形式との関係について（たたき台）

	知識・技能の利用	焦点化した問題を解決すること ○目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順にしたがって数学的に処理する力 ○数学的な見方・考え方を基に、的確かつ能率的に処理する力 ○論理的に推論する力（帰納、類推、演繹）	数学を活用した問題解決に向けて、構想・見通しを立てること ○数学的な問題の本質を見いだす力（洞察力） ○数学的な問題を解決するための見通しを立てる力（構想力）	解決過程を振り返り、得られた結果を意味づけたり、活用したりすること ○得られた結果を元の事象に戻してその意味を考える力 ○様々な事象に活用する力 解決過程を振り返りなどして概念を形成したり、体系化したりすること ○得られた結果を基に批判的に検討し、体系的に組み立てていく力 ○見いだした事柄を既習の知識と結びつけ、概念を広げたり深めたりする力 ○統合的・発展的に考える力
①焦点化された問題を解く ※数学における基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を用いて与えられた問題を解決すること ①選択式・短答式	簡単な無理数の四則計算（無理数の加法、減法、乗法公式などを利用した乗法、分母が二項程度までの分数の分母の有理化） ある命題が、他の命題の必要条件、十分条件、必要十分条件のいずれかであるか判断する。 分配法則、たすき掛けを用いて、式を展開したり因数分解したりする。 正弦定理、余弦定理や三平方の定理等を用いて、 $\sin \theta$ 、 $\cos \theta$ 、 $\tan \theta$ の数値を求める。 ある資料の、平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差等の数値を求める			
②問題を焦点化する（数式、図表、グラフ など） ※数学における基本的な概念や原理・法則を理解を基に、問題場面に活用して問題を解くこと ②選択式・条件付記述式		文字や数字で示された集合について、共通部分、和集合などを、場合分けして考えて解く。 おきかえや、交代式の性質などを用いたりして、式の展開や因数分解を能率的に行う。 絶対値を用いた一次不等式について、絶対値の性質やグラフなどを用いて場合分けして解く。 やや複雑な二次関数の最大値や最小値を条件に応じて場合分けをして求める。 絶対値の付いた二次関数について、場合分けしてグラフをかいたり、グラフを基に条件に適する数値の範囲を求める。 やや複雑な方程式をおきかえを利用したりして簡単な方程式に変形し解を求める。 正弦定理や余弦定理を用いて条件に適する図形やその特徴などを答える。		
③問題を焦点化する（問題解決の方略 など） ※問題場面で成り立つことが予測される数学的な事柄・事実や、問題解決に向けた構想を立てるなど問題解決の方略を表現すること ③選択式・条件付記述式		ある命題の真偽の調べる方法を求める 事象を特定の図形に着目して考察し、その結果を基に、問題解決の方法を数学的に説明する方法を求める ある統計資料について、ヒストグラム、箱ひげ図、平均、分散や標準偏差などを用いて傾向を見いだし予測される数学的な事柄について記述する。	ある命題の真偽の調べる方法を求める 事象を特定の図形に着目して考察し、その結果を基に、問題解決の方法を数学的に説明する方法を求める ある統計資料について、ヒストグラム、箱ひげ図、平均、分散や標準偏差などを用いて傾向を見いだし予測される数学的な事柄について記述する。	
④問題解決のプロセス全体を表現する ※証明など、数学的な問題解決のプロセスを表現すること ④自由記述式・証明		ある命題を背理法で証明する。 平面図形や空間図形について三角比の考え方をを用いて、計量したり証明したりする。 二次関数や二次不等式の特徴を踏まえて条件に適する数値を求めたり、証明したりする。	ある命題を背理法で証明する。 平面図形や空間図形について三角比の考え方をを用いて、計量したり証明したりする。 二次関数や二次不等式の特徴を踏まえて条件に適する数値を求めたり、証明したりする。	ある命題を背理法で証明する。 平面図形や空間図形について三角比の考え方をを用いて、計量したり証明したりする。 二次関数や二次不等式の特徴を踏まえて条件に適する数値を求めたり、証明したりする。

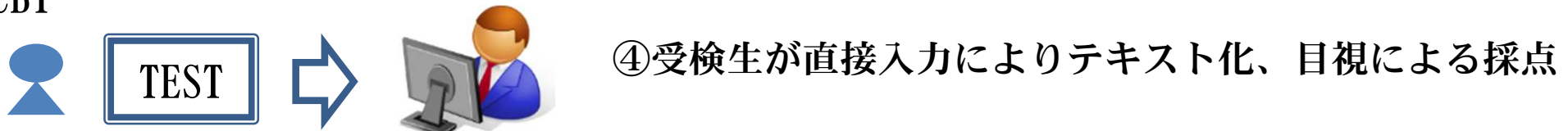
※解答させる内容と資質・能力、出題形式との関係は、代表的な例を挙げているものであり、問い方や場面等によっては別の出題形式等で問う可能性もあり得る。

■ PBT



WEB採点システムへの対応可
コンピュータによる採点支援
システムへの対応可

■ CBT



記述式採点の効率化②

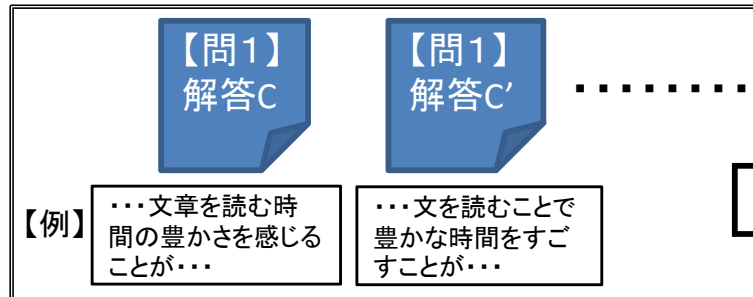
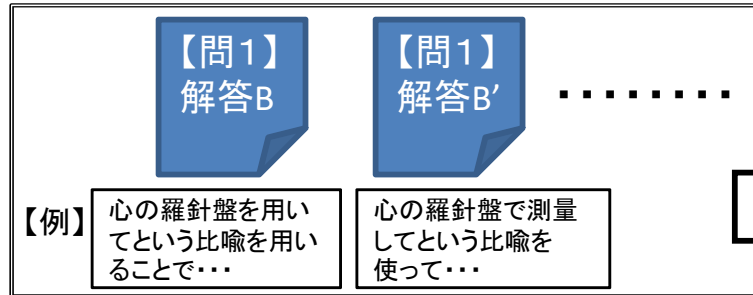
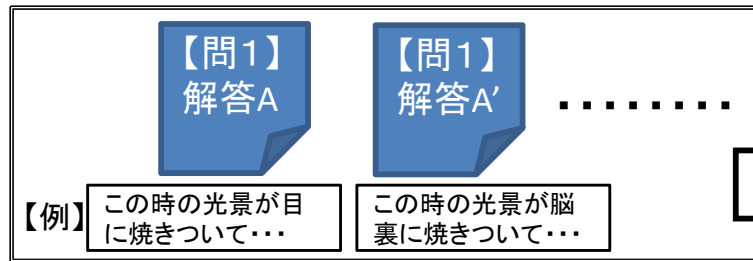
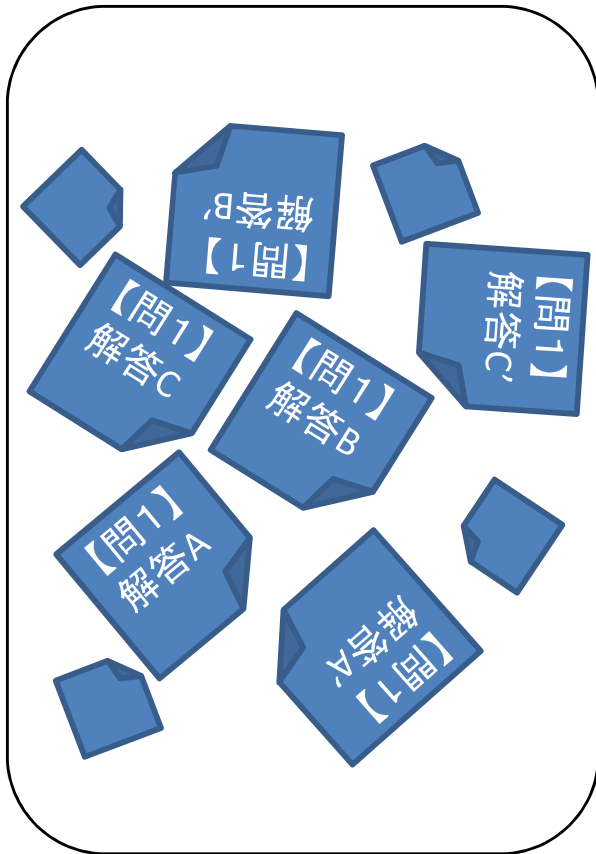
【クラスタリングによる採点の効率化】

デジタル化した記述式問題の解答を、テキスト処理により類似した解答ごとにグループ化(クラスタリング)し、グループごとに採点を行う。このことにより、採点効率が向上し、採点時間や採点の揺らぎを減らすことが期待できる。

【クラスタリングのイメージ】

クラスタリング

類似した解答ごとにグループ化する



採点

グループごとに採点



クラスタリング結果のサンプル

■ 回答例(ランダム)

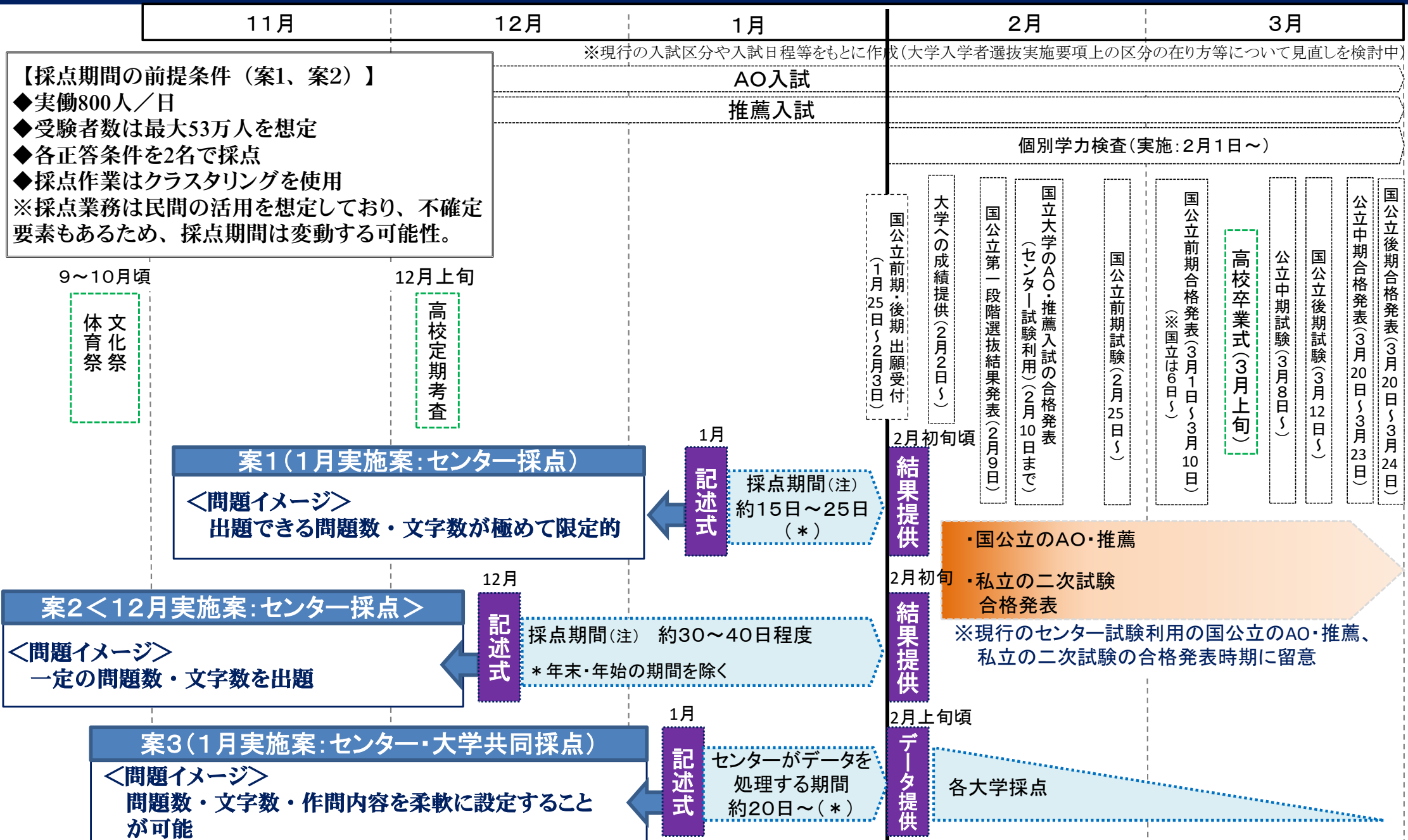
ID	Cluster	Name	Content
1	834	76023932	まず、オカリナの説明をして、その次に、声カソナの特徴の説明をして、最後に、気軽に楽しめることを説明して、簡単な曲ならすぐ吹けると言った後に演奏した方が〃〃から
2	599	98922378	吹き口から息を吹き込むと温かみのある音色が出る。とあるのでそこで音色を聞かせるといいと思う。次に簡単に吹けると言うので、その前にやつた方がいいと思う。
3	462	71323882	フリップ回ではオカリナの音色について説明しています。それでノートは温かみのある音色が出るを書いてあるので、この時に演奏すればよりその音を実感できずからです。
4	158	39139045	演奏するタイミングは、図の説明のときが良いと思います。理由は、図では、オカリナについて説明しているし、問いの中にも音色について聞いてほしいから。
5	113	95823047	ハ主からオカリナを吹きたいと思いますので前にオカリナの説明をします。オカリナの材質は素焼きの陶器のものが多くひす音色は吹き口から息を吹き込むと温かみのある音色が出る
6	554	61322488	2の所で吹き、から息を吹き、そと温かみのある音色が出ると説明して、スピーチの聞き手がその音色に興味を持、た所で演奏した方が良いと思、たから、
7	601	98924866	フリル五回の説明の7温かみのある音色が出るしというのとフリップ回のリコーダーのような指づかいという二つの説明を演奏で同時に説明できるからである
8	638	92429354	ヨの説明のときに、オカリナを実際に演奏したほうが良いと思います。なぜなら、音色を口でご説明するよりも、実際に演奏したほうが、音色がわかりやすいからです。
9	356	78920200	回の説明の時に演奏をすると言うフリップのイラストの横に、イ音色はマレと書かれていたので、その時に吹けばくちしし説明でマレと思ったかちずす。
10	499	43132951	フリップ回の説明の時に、音色の説明があるので、そこで一曲演奏するのと聞き手は温かみのある音色とはどんだものかわかるので、興味をもってもらえると思うから。
11	473	97628907	フリップ図でオカリナの材質や音色、指穴の数について説明しているのでフリップ回の説明のときに演奏するとオカリナについてわかりやすいと僕は感、たかちです。
12	541	71220875	フリップ回の説明のときなら、聞き手が疑問をもちそうな材質や音色、指穴の数などの特徴をオカリナを演奏し井回の説明をすればイメージがしやすいと思うからです。
13	654	74527162	ノードの回では、オカリナの特徴について説明していく回では、オカリナの吹き方などを説明していくフリップの回でもオカリナの吹さわなどがあるから。
14	652	79321420	回の説明のときにつ温かみのある音色が出るしと説明したものの、実際にどのような音色が出るのか聞き手は知らないため興味をわき、聞いてみたいと思うから
15	610	78929324	回オカリナの説明が終わってからのほうがオカリナについてよく分かっていて、国のある気軽に楽しめる所を見てもらったほうが分かりやすくなるから
16	607	74928705	回Yせレオカナへ特徴でこ村井刃お音色、材質、指穴の数など具体的に説明し、るるので僕だ、たオカリナの特徴をした後の図のタイムコがよいと思う
17	550	61222555	吹き口から息を吹き込むと温かみのある音色が出る、という説明をしたときに実際に聞き手側にも吹いてもらい指穴の数を説明した時に指穴をおさながら吹いてもらうかご。
18	510	59827519	フリップ3のときに演奏することによって、このようにレとフリップ3に書いてある内容をあとから付け加え、更に演奏と結び付けた発表をすることが出来るから。
19	563	98026914	なぜ、フリップ2のとき演奏する理由はノートの所で、温かみのある音色が出るとなっているが、実際温かみのある音色がどんなものか聞いて土らうため。
20	455	7726708	これを選んだ理由は回の説明の時ハどんな音色かを説明(まず、なのでその時に実際にたんな青がす3のかを聞いても、たほちがわかりやすいと考えたかちです。
21	464	89925926	僕は、Aのタイミングで演奏した方が良いと思います。なぜなら、回の中に、音色の説明をしていてその時に聞き手に音を伝えた方が印象に音が残りやすい見ナたからです。
22	215	40032526	理由は、このフリップは、オカリナの特徴だけ説明して、三のフリップは、オカリナの使い方を説明して、フ簡単な曲ならすぐ吹けるハハの後に演奏したらいいい。
23	585	87620061	フリップ回説明のときに、音色を説明するのと3があるの、その時に演奏すれば、自分の目で見たり感じたりすることができるのでフリップ回説明のときたしました。
24	550	39130879	へ珀ぎ。から息を吹き込むし、温かみのある音色が出るし、と彼に、つ申際に吹、てみキし、三たじし言、て83し興味を持、てキえると思ったかち。
25	184	50328835	オカリナを演奏するタイミングは回の説明のときが良、し、理由は、回では材質や音色について説明し、イ、ここで演奏すれば、材質や音色についてよく分かるから。
26	75	51425960	相手からつ音色はアレと聞いかけられているのに対し、つ吹き口から息を吹き込むと、温かみのある音色が出るしと解答しているため実際に吹くのに良いと思ったからです。
27	585	68329819	図の説明のときし音色のことを説明しているが、図の説明は指板、つ曲のしを説明しているから。たから演奏をするならば、田の説明のときの方が良、し、と思う。
28	642	43031861	回の説明のときに演奏する理由は回の説明で演奏のことについて話しているからです。話していきまとき演奏すれば一聞き手も興味をひかれると思いきした。
29	498	67124402	フリップ2は、オカリナの音色について説明しているが、言葉だけでは想すうしくいと思つたから。また、フリップ3の説明にもつながるためよ、理解しやすいから。
30	549	91772206	フリップ回説明のときに、音色は吹き口から息を吹き込むと、温かみのある音色が出るしと説明している、その時、実際に音色を聴かせてあげた方がイメージしやすいと思うから。
31	478	70792300	フリップ回ではオカリナの楽、さいい所が述べられているのでその時に吹く、し、し、話の最後に吹くことで印象に残るフレーズとして聞き手がとらえることが出来るから。

■ 解答例(クラスタリング後)

ID	Cluster	Name	Content
1	359	56724439	私がフリップ回説明のときに演奏をした方が良いと考える理由は、音色のことを話したときに演奏することでより印象に残ると思ったからです。
2	359	43029615	私がフリップ回説明のとき演奏するのがよいと考えた理由は、フリップ日の説明で音色について話るので、その時に演奏すれば聞き手にもわかりやすいと思つたからです。
3	359	38529353	私がフリップ目の説明のとき演奏する理由は、オカリナの特徴として音色の温かみのある音色が出るなどのオカリナ4ふ(にあたってすこいい説明だと思つたからです。
4	359	83322325	私がフリップ2の説明のときに演奏する理由は、ノートに書いてある温かみのある音色は、口で説明するだけでは聞き手に伝わりにくいと考えたからです。
5	359	68225957	私がフリップ回説明のときに演奏した方が良いと思つた理由は、温かみのある音色が、すぐに演奏すればより実感してもらえると考えるから。
6	359	48132022	私が1フリップ回説明の時に演奏するタイミングを選んだかさいうと1音色の説明でしてハる時に演奏したハと説明だけでは音包め事がわかりずら、Cダイホから。
7	359	41331307	私がAのフリップ回説明のときに演奏する理由に、説明で、オカリナの温かみのある音色が出るというところで演奏すると、より音を強調できると思つたからです
8	359	99223838	私、フリップ図のときに演奏するのが良いと思つた理由は、図に書いてある音色の説明に、温かみのある音と書いてあるのを理解してFLKからです。
9	359	42221760	私、クソッ2の説明のときに演奏するよと思つた理由は、ただなら、材質や音色に、実際に見たり、聞いたりした方が、聞き手に伝わりやすいと思つたからです。
10	359	86523327	私、フリップ田の説明のときに演奏します。そうすれば実際に材質や温かみのある音色、ナ二個の指穴などに注目して演奏も、ても6とると思つたからです。
11	359	49121591	私、Aのとき演奏する方が良く思つた理由は、ただなら、音色を説明しているとき演奏した方が音色を自ら聞いてわかりやすいと思つた、ですカ
12	359	77423771	私、たフリップ回説明のときにオカリナを演奏14す、なぜなら、国のフリップで音色の説明をするときに、演奏を聞いた方が、どんな音色か分かると思つたからですマ
13	359	45524419	私、たフリップ図の説明のとき演奏します。フリップ2の説明の中でも、音色の説明をしているとき演奏した方が、より、どんな音色が分かると思つたからで4。
14	359	41031168	私、たフリップ回説明のときに演奏する、たぜたら、スビ、キでつ温かみのある音色がでるとい記すので、その後演奏すると、より関心が高まると思つたから。
15	359	76426247	私、たフリップ回説明のときにオカリナを演奏したいでホたぜたら、音色で温かみのある音色が出るのかいであるが、実際に聞かないと分からないと思つたからです。
16	359	66825313	私、たフリップ2の説明のときに演奏した方が温かみのある音色が出る、た時に吹いたほうが、印象に残るとおもつた女らです。
17	359	44321345	私、た回説明のときに演奏します。オカリナの特徴で温かみのある音色が出る、と説明した後に演奏することで、温かみのある音色かを気にして聞いてもらえるからです
18	359	39539593	私、たフリップ図の説明のときに演奏する、ポケットから出して吹けば大きな指板ハ、オカリナの楽しさが説明と合、より正確に伝わると思つたから。
19	359	71828088	私、たフリップ回説明のときに演奏する、理由は、音色についての説明で温かみのある音色といわれてる具体的な説明に、温かみのある音と書いてあるのを理解してくれると思つたから。
20	359	58720996	私、たフリップ回説明のときに演奏します。理由は、温かみのある音色がでると説明すれば、スピーチをきいている側はその音色に興味をわいてくると思つたからです
21	359	43827758	私、たフリップ回説明のときに演奏します。わけはオカリナを吹くと温かみのある音色が出るため、その説明の直後に演奏すれば聞き手はより温かい気分になれるからです。
22	359	83428544	私、たフリップ回説明のときに演奏します。理由は、オカリナの特徴に、へ温かみのある音色がある、とあり、実際に吹いてその音色を聞いてほしいと思つたからです。
23	359	37921679	私、たフリップ図の説明のときに演奏すると思つた、ハぜなら、温かみのある音色がある、と説明した後に演奏すると深く印象に残せると思つたからです。
24	359	38328299	私、たフリップ図の説明のときに演奏する、なぜなら、ノート図の所でどのような音色があるかの説明が、たので、そのときに演奏するのが一番わかりやすいと思つたから
25	359	73122937	私、たフリップ回説明のときに演奏します。回の中に温かみのある音色といわれて、どんな音色かが気にな、て図の説明をするにも耳に入らないと思つたからです。
26	359	98226065	私、たフリップ2のときに演奏します。なぜなら、温かみのある音色が出る、と説明されただけではよく分からないので、実際に吹くと理解しやすいと思つたからです。
27	359	72622203	私、たフリップ2の説明のときに演奏します。フリップ2ではオカリナは、温かみのある音色が出る、と書いています。そこで演奏すれば、その音色の良さが伝わると思つた

類似の回答が連続して表示されるため、採点者が採点しやすい

「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の記述式の実施方法・時期のイメージ(たたき台)



(*) 実施時期を早めたり、結果提供の時期を遅らせることも検討。
 (注) 採点期間には、採点の事前・事後の、採点基準の確定、研修、成績提供準備等に係る期間を含む。

【共同採点の仕組み(案3)の一例】
 ◆新センター：採点基準作成、一定の処理(クラスタリング、形式面での確認等)
 ◆利用大学：内容面の採点、判定
 ※採点に係る役割分担について、今後、大学関係者等と調整

大学入学者選抜における民間の英語資格・検定試験の活用状況

別紙6

平成27年度大学入学者選抜において民間の英語資格・検定試験を活用している大学は、**43.0%**
(299/695校) (参考：平成25年に実施した「平成25年度大学入学者選抜における民間の英語資格・検定試験の活用状況」時点では35.8%)

国立大学では、**推薦入試が23.5%、AO入試が13.6%、一般入試では11.1%**が導入。

	純計	推薦	AO	一般
国立	35	18	11	9
	(43.2%)	(23.5%)	(13.6%)	(11.1%)
公立	21	17	8	1
	(26.3%)	(21.3%)	(10.0%)	(1.3%)
私立	243	168	149	34
	(45.5%)	(31.5%)	(27.9%)	(6.4%)
計	299	203	168	44
	(43.0%)	(29.2%)	(24.2%)	(6.3%)

上段(単位/校)

下段()は国立81校、公立80校、私立534校、計695校に対する割合

※回答時点における導入予定校を含む

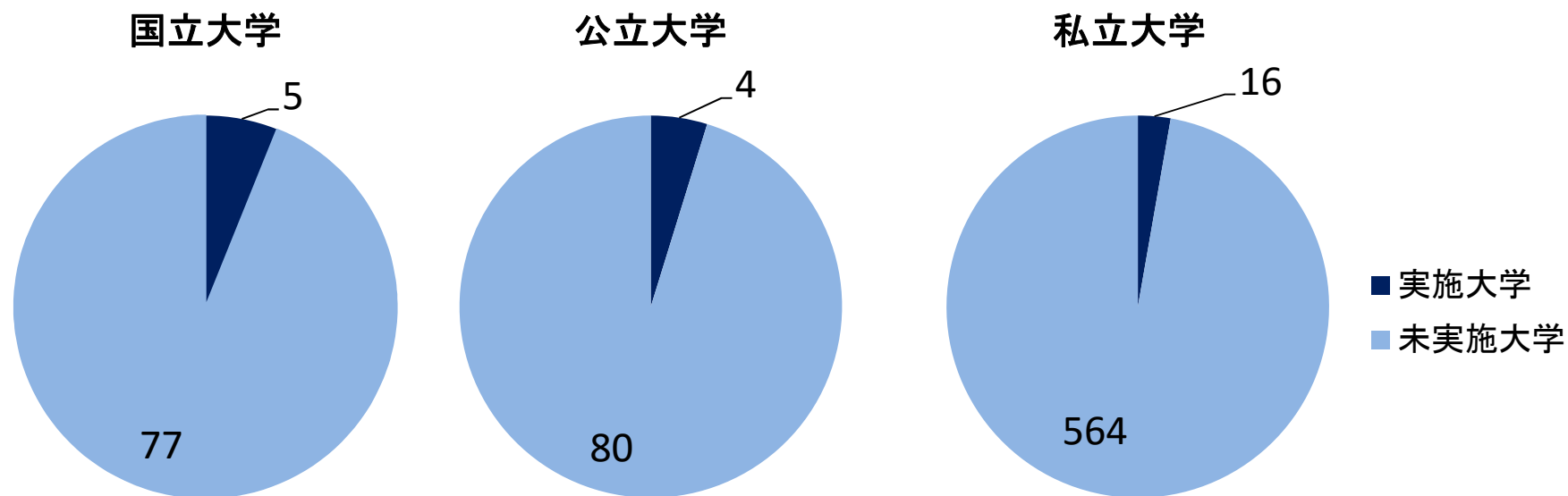
※平成27年度文部科学省委託事業

「民間の英語資格・検定試験の大学入学者選抜における活用実態に関する調査研究事業」から引用

個別選抜において英語のスピーキングの技能を評価している大学

平成27年度大学入学者選抜において、**英語のスピーキングの技能を評価している大学は、3.4% (25/746校)**

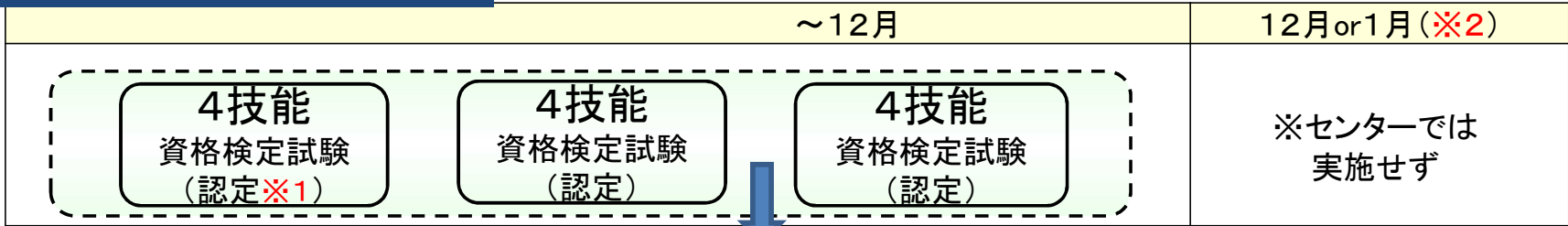
国立大学では、5大学がスピーキングの技能を評価しているが、面接試験の一環として評価する傾向。



	大学数	選抜を実施する大学における割合
国立大学	5	6.1%
公立大学	4	4.8%
私立大学	16	2.8%
合計	25	3.4%

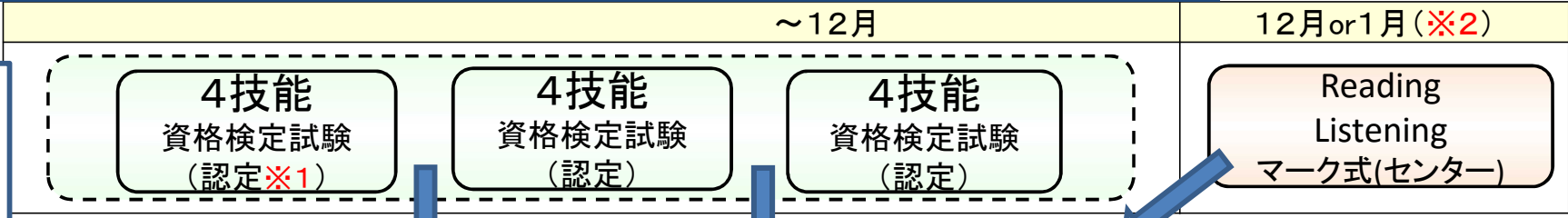
※平成27年度大学入学者選抜実態調査をもとに作成

【案1】 4技能の資格検定試験活用



大学では、4技能
資格検定試験を活用

【案2】 英語4技能（2技能）の資格検定試験活用＋2技能のセンター実施



4技能の民間活用【案1】
を見据えながら、当面
センターにおいても試験
を実施する案

大学では、4技能 や Speaking
Writing + Reading
Listening 等を選択し活用(※3)

※1 認定基準に応じて、①既存の検定試験のカスタマイズ、②新規の検定試験の導入もありうる。
 ※2 センターが実施する時期については、12月と1月の双方が考えられる。
 ※3 大学においては、いずれか（又はその組み合わせ）の活用方式を選択し公表（選抜実施要項に明記）

平成28年度大学入試センター試験（本試験）科目別受験者数及び平均点について

受験者数 536,722人

教科名	科目名	受験者数	平均点	最高点	最低点	標準偏差	教科名	科目名	受験者数	平均点	最高点	最低点	標準偏差	
国語 (200点)	国語	507,791	129.39 (64.69)	200 (100)	0 (0)	36.01 (18.00)	数 学	数学① (100点)	数 学 I	5,981	36.48	98	0	19.74
									数 学 I ・ 数 学 A	392,479	55.27	100	0	19.93
地理歴史 (100点)	世界史 A	1,449	42.07	100	0	16.71		数学② (100点)	数 学 II	5,782	27.76	100	0	16.46
									数 学 II ・ 数 学 B	353,423	47.92	100	0	22.25
	世界史 B	84,131	67.25	100	0	20.31		簿記・会計	簿記・会計	1,401	57.71	98	6	18.11
									情報関係基礎	539	56.21	98	11	19.48
	日本史 A	2,472	40.81	97	0	16.91		理科① (50点)	工業数理基礎	(※) 4	54.25	90	22	24.68
									物 理 基 礎	18,304	34.37 (68.74)	50 (100)	0 (0)	10.27 (20.54)
	日本史 B	160,830	65.55	100	0	18.99		理科② (100点)	化 学 基 礎	105,937	26.77 (53.54)	50 (100)	0 (0)	10.73 (21.46)
									生 物 基 礎	133,653	27.58 (55.16)	50 (100)	0 (0)	9.24 (18.48)
	地 理 A	1,805	52.14	97	0	14.68	理科① (50点)	地 学 基 礎	47,092	33.90 (67.80)	50 (100)	0 (0)	10.55 (21.10)	
								物 理	155,739	61.70	100	0	23.64	
地 理 B	147,929	60.10	100	0	14.11	理科② (100点)	化 学	211,676	54.48	100	0	20.94		
							生 物	77,389	63.62	100	0	18.82		
公民 (100点)	現代社会	80,240	54.53	100	0	16.60	外国語	【筆記】 (200点)	地 学	2,126	38.64	100	0	15.77
									英 語	529,688	112.43 (56.21)	200 (100)	0 (0)	42.15 (21.07)
	倫 理	26,039	51.84	96	0	15.42	【筆記】 (200点)	ド イ ツ 語	147	130.92 (65.46)	197 (98)	39 (19)	42.14 (21.07)	
								フ ラ ン ス 語	140	151.04 (75.52)	200 (100)	40 (20)	35.84 (17.92)	
	政治・経済	49,184	59.97	100	0	16.48	【筆記】 (200点)	中 国 語	482	158.02 (79.01)	200 (100)	29 (14)	33.74 (16.87)	
								韓 国 語	174	128.05 (64.02)	196 (98)	40 (20)	43.18 (21.59)	
倫理, 政治・経済	48,709	60.50	100	0	15.71	【リスニング】 (50点)	英 語	522,950	30.81 (61.62)	50 (100)	0 (0)	9.35 (18.70)		

(注1) 平均点, 最高点, 最低点及び標準偏差欄の()内の数値は, 100点満点に換算したものである。

(注2) 上表の数値は, 得点調整後のものである。

(※) 「工業数理基礎」については, 平成29年度以降実施せず(平成28年度は旧課程履修者のみ対応)。

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」プレテストの実施

平成29年度概算要求額 11億円

1. 背景・目的

高大接続改革を実現していくためには、大学入学者選抜において、「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する必要がある。しかし、**現行の大学入試センター試験については、「思考力・判断力・表現力」を問う問題はあつもの「知識・技能」を問う問題が中心となつており、更なる改善が必要。**

そのため、中央教育審議会答申（平成26年12月）や高大接続システム改革会議「最終報告」（平成28年3月）等を踏まえ、**「知識・技能」を基盤とした「思考力・判断力・表現力」を中心に評価する「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」を円滑に実施・導入**するため、記述式の作問・採点を含むテストの信頼性・妥当性についての実証的検証、試験問題の難易度、運営上の問題の検証、トラブル発生時の検証、民間知見の活用等を行うための試行テスト（プレテスト）の実施に向けた必要経費について支援。

2. 実施内容

- 支援期間は、平成29年度～平成31年度の3年間（平成30年度は「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」と同様の形式で実施予定）

【平成29年度】

- 平成30年度の大規模実施のための検証も含めたテストを実施（5万人規模、首都圏100か所）
（主な内容）
 1. 実施企画（実施内容、記述式問題、英語等）
 2. 試験問題の作成（※）及び作成問題のチェック・分析
 3. 記述式問題の採点支援システムの構築及び採点マニュアル作成（国語、数学）
 4. プレテスト実施・採点（5万人規模、首都圏100試験場）
 5. テストシステム構築（志願票、受験票、成績提供等）
 ※ 国語、数学、地歴・公民、理科、英語、特別の配慮等

【平成30年度（予定）】

- 実施体制、採点体制等について、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」と同様の形式で実施（10万人規模、全国200か所程度）

【平成31年度（予定）】

- 平成30年度実施を踏まえ、改善すべき内容等について実施（1～5万人規模、首都圏100か所）
※その他、C B Tの導入に向けた検討を実施（複数回実施のための等化の検討を含む）

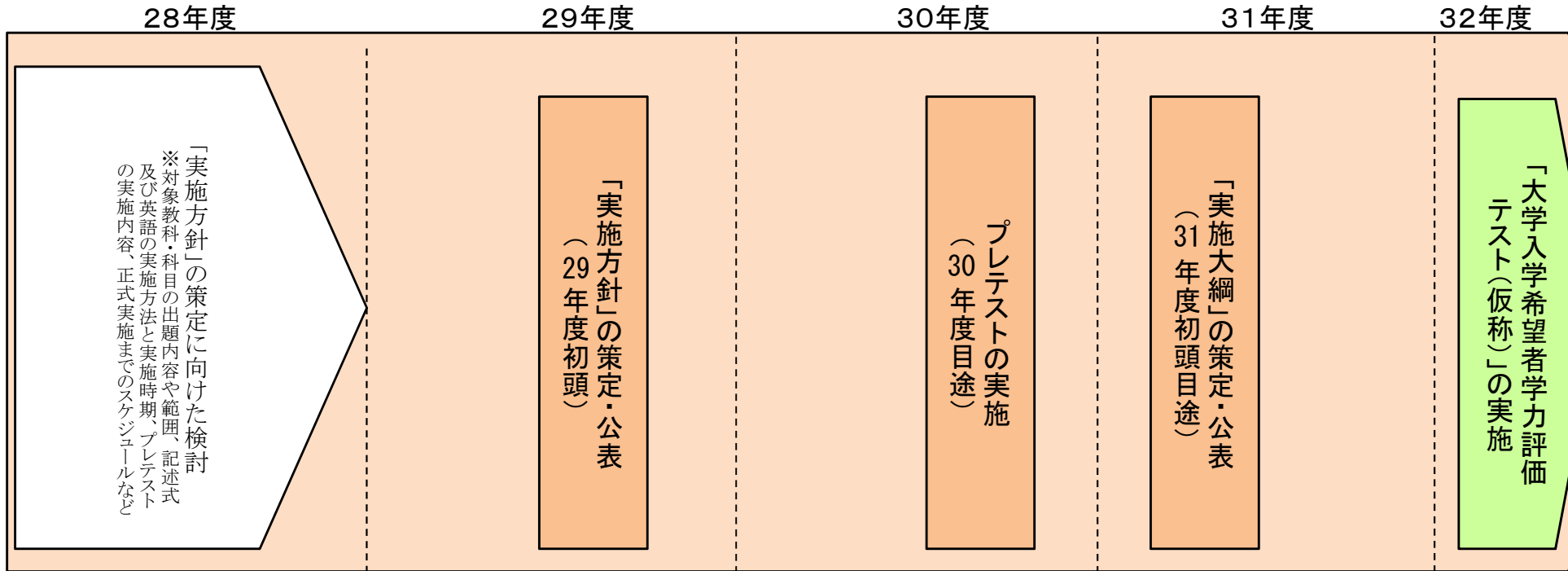
3. 達成目標・成果

- 記述式問題の実施方法・採点方法等の検証
- 実施運営要領（実施要領、監督要領等）の作成を含む試験実施体制の構築

大学入学希望者学力評価テスト(仮称)の導入スケジュール (検討中)

「大学入学希望者学力評価
テスト(仮称)」の導入

導入までの検証等(予算事業)



	フィージビリティ検証事業	事前プレテスト	プレテスト	確認プレテスト
受験者数	500人	5万人規模	10万人規模	未定
対象者	大学1年生	高校3年生・大学1年生	高校3年生	未定
対象教科等	国語、数学、理科(物理)、地歴(世界史)、英語(P)	国語、数学、地歴・公民、理科、英語、特別の配慮等(※) ※具体の対象科目は要検討	国語、数学、地歴・公民、理科、英語、特別の配慮等(※) ※具体の対象科目は要検討	未定
実施時期	11月、1月、2~3月	11月	12月	未定

※その他、CBTの導入に向けた検討を実施。(複数回実施のための等化の検討を含む。)